

比 恵 4 9

—比恵遺跡群 第104次調査報告—

2 0 0 7

福岡市教育委員会

序

福岡市は古くから大陸よりもたらされる様々な東アジア文化を受け入れる窓口として栄えてきました。人・物の交流は盛んでその結果数多くの歴史的遺産が培われて今日に至っています。これらかけがえのない遺産を保護するという立場から、福岡市教育委員会では、市内の遺跡把握に努め、時には発掘調査をおこなって記録保存という形で、往事の有様を後世に伝えています。

本書は平成18年におこないました、比恵遺跡群第104次調査の内容について報告するものです。本書が市民の皆様の埋蔵文化財、ひいては地域の歴史に対する理解の一助となり、また考古学上、地域史上の研究資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の調査において費用の負担をはじめとすご協力をいただきました、生田和典氏をはじめとする関係各位に深く感謝申し上げます。

平成19年3月30日

福岡市教育委員会
教育長 植木 とみ子

－例 言－

- ・ 本書は福岡市教育委員会が2006年2月7日から2006年3月17日にかけておこなった比恵遺跡群第104次調査調査（博多区博多駅南5丁目114－1他）の報告である。調査は藏富士寛が担当した。
- ・ 本書の編集は藏富士がおこない、遺物の実測・トレースについては米倉法子の手を煩わせた。
- ・ 本書における方位は座標北である。
- ・ 本書に関わる資料は、この後福岡市埋蔵文化財センターに収蔵される予定である。
- ・ 尚、調査費用の一部には国庫による補助を受けている。

目 次

I. はじめに	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の組織	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の記録	4
1. 遺跡の状況	4
2. 出土遺物	4
	5
IV. まとめ	

挿 図 目 次

図1 比恵遺跡群 (1/5,000)	2
図2 遺跡の位置 (1/800、1/300)	2
図3 遺構配置 (1/100)	3
図4 出土遺物1 (1/6)	4
図5 出土遺物2 (1/6、1/3)	5

図 版 目 次

- 上 調査区北東側 (西から)
- 中 調査区南西側 (北東から)
- 下 甕棺出土状況 (西から)

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

平成17年11月22日、大福産業株式会社より、博多区博多駅南5丁目114-1、3における共同住宅建設に関して、埋蔵文化財の有無に関する照会がなされた。この地点は比恵遺跡群の範囲内であることから、埋蔵文化財課では試掘調査をおこない、現地表下1.2mで遺構の存在を確認した。

この結果を受けて、両者協議の結果、遺跡への影響は避けられないということになり、遺跡の記録保存という形での対応が採られることとなった。発掘調査の開始は平成18年2月7日。同年3月17日にすべての作業を終了した。調査に当たっては、今調査の委託者である生田和典氏、大福産業株式会社をはじめとする関係各位に多大な協力を賜った。記して感謝したい。なお、調査費用の一部には国庫補助を受けている。

2. 調査の組織

調査は以下に示す組織で実施した。

調査委託 生田和典

調査主体 福岡市教育委員会

平成17年度

調査総括 埋蔵文化財課 課長 山口譲治
調査2係長 池崎譲二
調査庶務 文化財整備課 管理係 鈴木由喜
調査担当 埋蔵文化財課 調査2係 藏富士寛
調査作業 阿部幸子 小池温子 幸田信乃 小路丸嘉人 寺園恵美子 中野裕子 永田律子
夏秋弘子 増田ゆかり 吉川暢子

平成18年度

総括 埋蔵文化財第1課 課長 山口譲治
調査係長 山崎龍雄
庶務 文化財管理課 鈴木由喜
整理担当 埋蔵文化財第1課 調査係 藏富士寛
整理作業 柴田加津子 萩本恵子 日名子節子

遺跡調査番号	0570	遺跡略号	HIE-104		
地番	博多区博多駅南5丁目114-1・3	分布地図番号	東光寺 37		
開発面積	677.68㎡	調査対象面積	366.45㎡	調査面積	264㎡
調査期間	2006. 2. 7～2006. 3. 17				

Ⅱ. 位置と環境

比恵遺跡群は福岡平野の中央部に位置し、平野を流れる那珂川と御笠川とに挟まれた標高5～8mの洪積台地上に存在する。比恵遺跡群の南側には那珂遺跡群が存在しているが、遺構の分布状況を考えれば一連の遺跡として認識すべきであり、両者を含めれば、南北2.4km、東西1kmという広さを誇る。遺跡としての本格的な展開をみせるのは弥生時代になってからのことであり、古墳時代前期まで、当遺跡の盛期は続く。今回の調査で出土した遺物の多くもこの段階のものである。

今回の調査地点は遺跡の西側にあたり、北側では「那津官家」との関連も指摘されている遺構群を検出した第8・72次調査がおこなわれている。

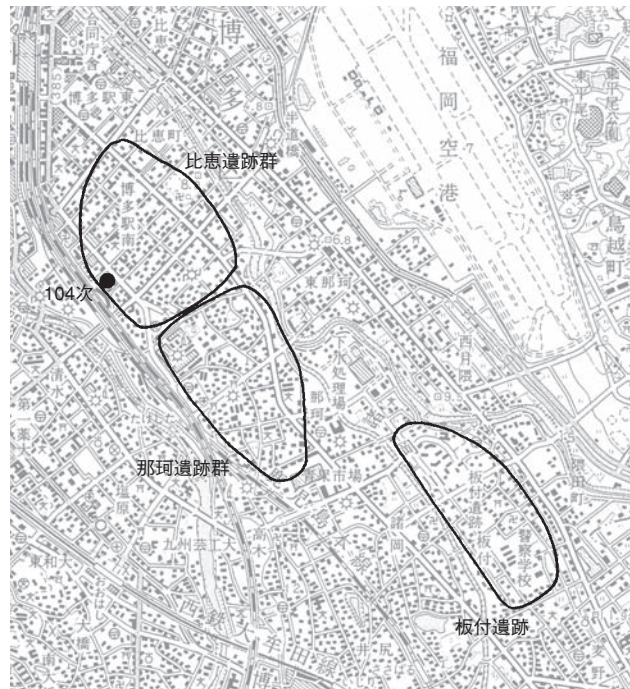


図1 比恵遺跡群 (1/5,000)



図2 遺跡の位置 (1/800, 1/300)



図3 遺構配置 (1/100)

Ⅲ. 調査の記録

1. 遺跡の状況

調査はまず、重機による表土剥ぎより開始した。そして現地表下1m、標高5.6m前後の鳥栖ローム上に遺構面を設定し、調査をおこなった。遺物包含層の堆積はほとんどない。尚、排土処理の関係で、調査区を二分して実際の調査をおこなっている。

検出遺構には、土坑、ピット等があるが、大半は近世以降、近・現代に至る攪乱によるものであり、近世以前にさかのぼるものとしてはピット2があるに過ぎない。ピットからは遺物が出土せず、その所属時期は不明である。しかし、攪乱坑より、コンテナ17箱分の遺物が出土している。内容としては、弥生時代中期後半を中心とし、その他、古墳時代、中世等の遺物を若干含んでいる。これら遺物の中では、甕棺の存在が注目される。甕棺は攪乱土の中からまとまった形で検出でき、ある程度の大きさに復元できた。これは甕棺が近在で取り出され、そのまま廃棄されたことを示している。

2. 出土遺物

1～5は甕棺である。1はおそらく上甕であろう。壺の口頸部を打ちかいており、胴部には3条の突帯を巡らしている。2～5はいずれも断面鋤先形の口縁部を有し、口縁部下には1条の突帯、そして2・3・5は胴部中央に2条の突帯をそれぞれ巡らしている。2・5は胴部が丸みを帯びる。6は壺口縁部片。断面鋤先形の口縁部を有し、その外面には刻み目を施している。頸部には1条の突帯を巡らす。7は無頸壺で、口縁端部下には鋸状の突帯を貼り付けている。7は外器面に丹塗の痕跡が残る。以上、1～7はすべて弥生時代中期後半に位置づけることができる。

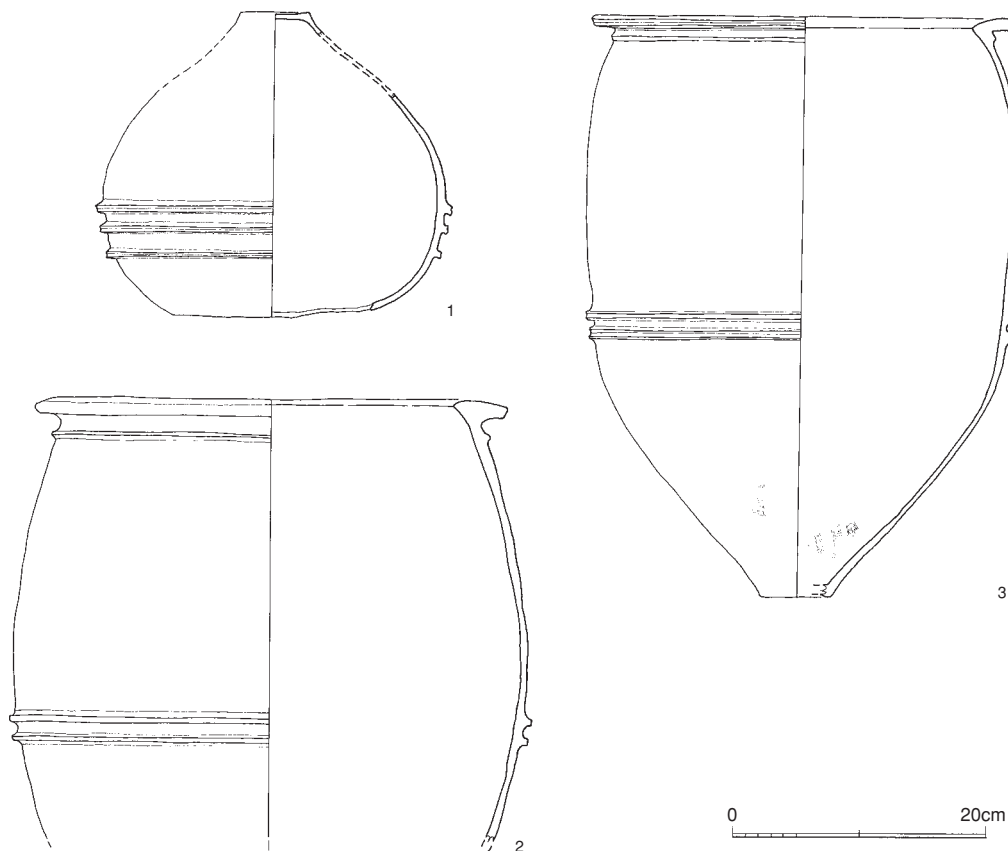


図4 出土遺物1 (1/6)

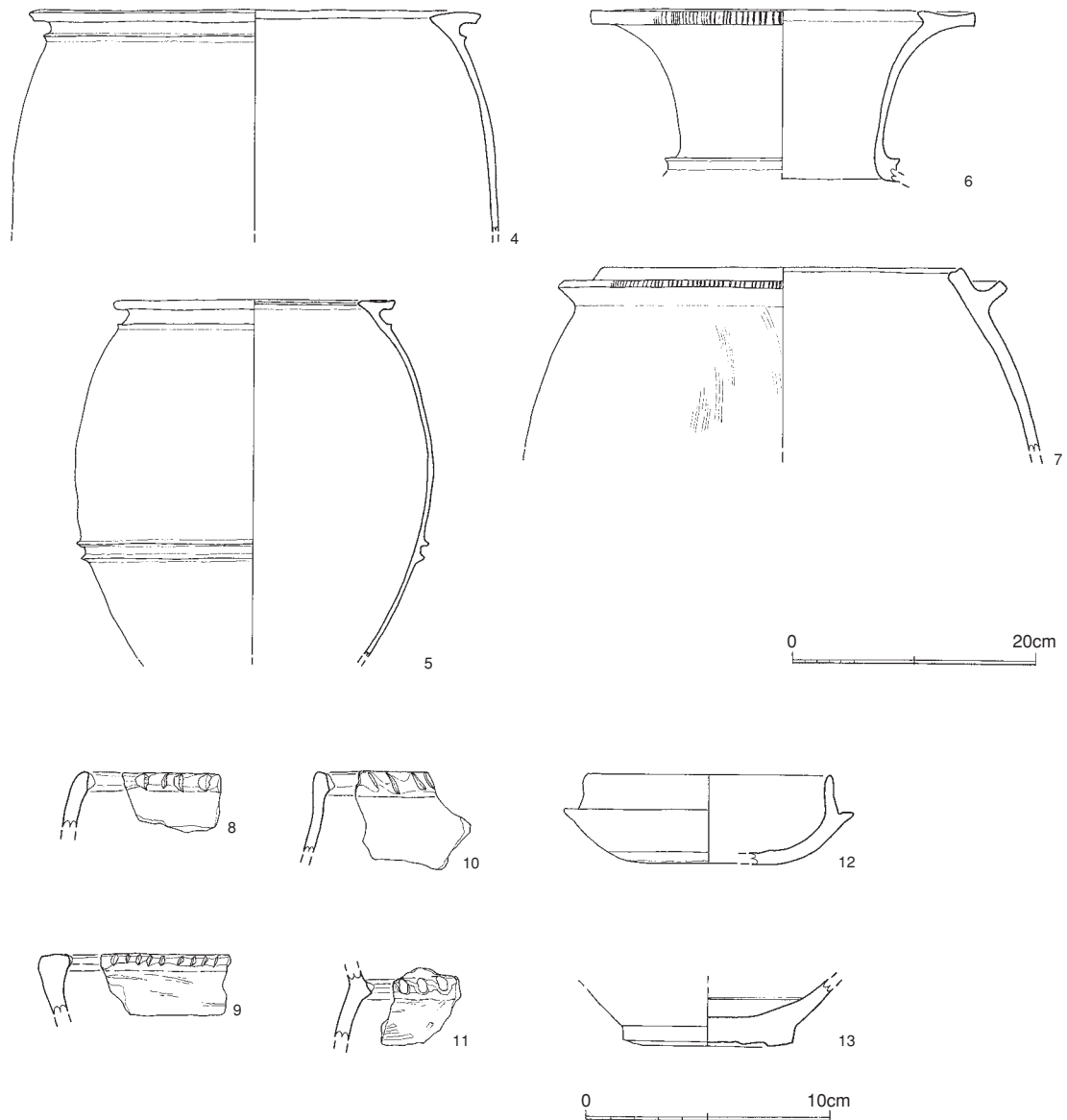


図5 出土遺物2 (1/6、1/3)

12は須恵器杯身。立ち上がりは比較的直立し、口縁端部は丸く収めている。6世紀後半に位置づけることができる。8～11は突帯文期の深鉢口縁部片。いずれも刻み目を有している。13は白磁碗底部片。高台は低く、内部の削りは浅い。11世紀後半～12世紀前半に位置づけることができる。

IV. まとめ

近世段階より続く激しい地形改変により、遺構の遺存状況は悪く、遺跡の状況については不明な部分が多い。しかし、弥生時代中期後半を中心とする多くの弥生土器が出土し、また甕棺がある程度、原形をとどめて出土したことは、周辺に概期の集落、そして特に墓地が営まれていた可能性が高いといえるだろう。



調査区北東側（西から）



調査区南西側（北東から）



甕棺出土状況（西から）

報告書抄録

ふりがな	ひえ							
書名	比恵49							
副書名	比恵遺跡群 第104次調査報告							
巻次								
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第958集							
編著者名	藏富士 寛							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神1-8-1 TEL 092-711-4667							
発行年月日	2007. 03. 30							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
ひえ 比恵遺跡群	ふくおかけんふくおかし ほかたく 福岡県福岡市博多区 ほかたえきみなみ 博多駅南5-114-1・3	401307	0127	33° 34′ 22″	130° 25′ 47″	20060207 ～ 20060317	264	共同住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
比恵遺跡群	集落	弥生	ピット2	弥生土器 甕棺 須恵器				
要旨	<p>近世段階より続く激しい地形改変により、遺構の遺存状況は悪く、遺跡の状況については不明な部分が多い。しかし、弥生時代中期後半を中心とする多くの弥生土器が出土し、また甕棺がある程度、原形をとどめて出土したことは、周辺に概期の集落、そして特に墓地が営まれていた可能性が高いといえるだろう。</p>							

比 恵 4 9

— 比恵遺跡群 第104次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第958集

2007(平成19年)年3月30日発行

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 ソウヤマ印刷
福岡市博多区中呉服町10-5



遺跡名	遺跡略号	調査番号
博多遺跡群第104次	HIE-104	0570

